

社団法人
大阪青年会議所理事長

は の ただし
羽野 禎 さん



プロフィール

1968年、大阪市生まれ。父の死をきっかけに10代で上京し、コンピューター関係の雑誌社などで働く。3年後に帰阪してコンピューターソフトの開発会社を起業。89年、ECCコンピューター学院を卒業。現在は、電化製品やコンピュータ製品の通信販売も手がけ、年商は約26億円。大阪青年会議所には99年に入会。02年、わんぱく相撲委員会委員長、04年、新商都デザイン室室長などを歴任。06年1月から第56代理事長。



平成18年7月15日「アメリカ村」での落書き消しの様子

あきらめず、妥協せず、 勇気を持って

社団法人 大阪青年会議所(大阪JC)が、創立56周年を迎えている。より良い大阪の「まちづくり」「人づくり」をめざすため、次代の担い手たる責任感を持った、25歳から40歳までの青年経済人で組織された団体だ。正会員数約630人、大阪をはじめ全国で活躍するOB約2300人を誇るこの大阪JCの理事長が、羽野 禎さんである。

理事長就任に際し、羽野さんが掲げたスローガンが「実現!誇り高きまち大阪～あきらめず、妥協せず、勇気を持って」である。このスローガンの下、様々な事業が展開されているが、大きく注目された事業に、中央区・アメリカ村での「落書き消し」活動がある。

若者の流行の発信基地として知られるアメリカ村だが、近年は「落書きが多い、ゴミが多い、犯罪が多い」など問題が持ち上がっている。そこで地元自治会が立ち上がり、大阪JCも協力して実現したのが「落書き消し」活動である。

実は、落書きを消すことで犯罪が減るという考えは、『割れ窓理論』(割られた窓を放置すれば、やがて他の窓も

破壊される。軽い犯罪のうちに処理しないと凶悪犯罪に結びつく、というアメリカで考案された理論)に着目したものだ。落書き消しは7月中旬以降9月末までに、アメリカ村や隣接する堀江地区で行われたが、1回当たり約200人もボランティアが参加しマスコミにも大きく取り上げられた。その注目度は高く、北区茶屋町でも同様の活動が行われる予定だ。「(落書きをする)今の若者が悪いと決め付けるのではなく、あきらめずに活動すれば、いい世の中を作っていけるということです」と羽野さん。

17歳で会社を起業

大阪生まれの大阪育ち。「10代で職を求めて上京し、住み込みで手に職をつけた」という苦労人だ。その苦労と情熱が、コンピューター関係の雑誌社での仕事を通じてIT産業と結びつくことになる。帰阪してコンピューターソフトの開発会社を起業したのが、3年後の17歳。仕事の合間を縫って、コンピュータの専門学校でさらに知識を深めた。

株式会社にして14年目を迎えた現

在は、本業と青年会議所の仕事で「月の半分ぐらいは東京などへの出張ですね(笑)」という多忙ぶりだ。

あきらめず、妥協せず～

30歳で大阪JCに入会し、翌年には早くも、広報渉外委員会幹事や日本青年会議所(日本JC)日中友好交流委員会委員など活躍を始める。こうした積極的な活動の原動力は「大阪のまちを良くしていけば、誰かのためになる。その誰かの中に、私の子どもたちも入っている」とい確たる信念からに他ならない。

大阪JCのスローガンにある「あきらめず、妥協せず～」は自身への「起爆材」でもある。「もう少し頑張ったらもっと凄ことができるはず、ということがあると思う。限界を自分で決めてしまいがちですが、あきらめず妥協しないことが大切ですね」と力を込める。今後の抱負を「ナマの声を大切にし、活動を継続させるための仕組みづくりです」と語る羽野さんに、新年からは日本JC副会頭としての重責が加わる。

(文・脇本勤 / 表紙写真 高島悠介)